

英真学園剣道部 夏休み活動報告

7月9日～10日 近畿高等学校剣道大会（滋賀県）

8月2日～4日 全国高等学校総合体育大会（岡山県）

○近畿大会に出場して

私は今まで剣道を続けてきて1度も近畿大会という舞台に立ったことがありませんでした。昨年男子の先輩が近畿大会に出場して試合をしている姿がとてもカッコよくて、自分も来年は大阪の代表として試合したいと思っていました。今回、初めての舞台でとても緊張しましたが、1回戦は我慢して最後は飛び込み面で勝つことができました。2回戦は相手のペースで試合が進んでしまい負けてしまいました。今回念願の近畿大会という舞台で試合が出来たことは今後の良い経験になったと思いました。



○インターハイに出場して

インターハイという全国大会も初めてでした。1年前から久米先生に「インターハイ、岡山、行くで！！」と言われていましたが、私はまず個人戦のメンバーに選ばれるように稽古を頑張らないといけないと思っていました。

全国大会の会場の雰囲気はすごく気持ちよかったです。自分の試合では緊張するというより早く試合したいという気持ちが強く湧いてきました。アップ会場では他の県の出場チームがアップしているのを見る機会がありましたが、とてもレベルが高かったです。足のさばきや竹刀の振りのスピードが私とは全然違いました。

1回戦では岡山代表の選手と対戦して、お互いに我慢勝負になりました。試合開始から20分ぐらいたったときに私が思いっきり面に飛んだところを小手を打たれ負けました。悔しかったです。

インターハイに向けての壮行会では、生徒会を中心に色々サプライズをしていただき、とても感動しました。本番ではたくさんのクラブや先生方が応援に来てくださり、勇気付けられました。このようにインターハイに出場できたのはたくさんの方々のおかげからだと思います。感謝しています。

来年は、団体戦と個人戦で近畿大会、インターハイに出場できるように大目先生、久米先生、丹羽先生、先輩、後輩、そして同級生に力をかりてみんなで目標に向かって稽古に取り組んでいきたいと思います。

(2年生 紺本 楓)



今年は、英真剣道部男女通じて初の女子個人インターハイ出場を果たしました。上位進出はなりませんが、とても良い勉強になりました。強豪校の試合は、女子でも男子でも竹刀を振るスピードがとても速く迫力のある試合でした。試合前の練習でも、勝ちたいという気持ちが伝わってくるほど気迫のある練習でした。足の動きや技のつなぎも速く見ていてドキドキする試合でした。インターハイ出場目指してスピードを速く、技のつなぎを途切れることのないように稽古していきたいと思います。

(1年生 川端 健太)

7月23日～28日 玉竜旗剣道大会（福岡県）

7月23日～27日まで、福岡県で行われる玉竜旗に出場してきました。去年、一昨年の玉竜旗では初戦敗退という結果で今年こそ絶対に初戦を突破し1試合でも多く戦うとみんなに心に決め挑んだ大会でした。私たちにとって、初戦を突破することができたということは、大きな1歩だと思っています。福岡遠征に行ったことで、1人1人の課題も得ることができました。今後は、この経験を生かし、もっともっと頑張っていきたいと思います。



(3年生 女子主将 佐々木 麻衣)

剣道の激戦区九州に1週間の遠征に行きました。まず、練習試合では珍しく勝ち抜き戦でいつもとは違った雰囲気味わえました。試合相手も各地の強豪校と試合が出来るので、私たちのチームに足りないところがはっきりと分かりとてもいい経験ができました。

玉竜旗剣道大会は、全国の強豪校が集い、優勝校を決めるのに3日間もかかる大きな大会です。私たちは1回戦シードで2回戦からのスタートでした。先鋒に3人抜かれてしまい防戦一方の試合でした。でも「つながりを大事にする」ということをチームの目標としていたので、流れは副将の僕にめぐってきました。相手チームを1人また1人と抜いていき気づいた時には、大将まで抜いていました。英真学園初の5人抜きを達成し2日目に勝ち残ることができました。

3回戦は、徳島県の学校との試合でした。先鋒が一人抜いて2人目に引き分けで相手の中堅が出てきました。その中堅に今度は4人抜かれてしまい3回戦で力及ばず敗退してしまいました。

この九州遠征を通してたくさんの課題を見つけることができたとともに、私たちのチームの良さも確認できたと思います。これからみんなで一丸となって稽古にとりくみ、今よりももっとチーム力を向上させて、個人個人の技術も工夫して上げていきます。そして来年の玉竜旗では3回戦以上に勝ち



上がっていきえるようにしたいと思います。

(2年生 稲岡 成隆)

私は1年生で初めて玉竜旗という大舞台に行かしていただき、たくさんの経験をすることができました。北海道から沖縄までたくさんの選手が来ていたので、とても驚きました。私は補欠だったのですが、試合場に入った瞬間手の震えが止まらないほど、とても緊張していました。でも、先輩方が勢いのある試合をしてくれたので応援に必死でした。

2回戦は惜しくも負けてしまい、悔し涙を流してしまいました。その時、私は「来年はメンバーとして出場して悔いのない試合をやろう」と決めました。

英真の試合が終わり、他の県の学校の試合を見ていましたが、どの学校も激しい試合ばかりでした。玉竜旗に行って、たくさんの試合を見ることができ、行かせていただいたことに感謝しています。学校の稽古でも足を使って、自分がどうしたら勝てるかを工夫して、もっと強くなれるように頑張ります。

(1年生 久野 千静)

8月13日～15日 新潟遠征

今年初めて、新潟の葦原錬成会に2日間参加させていただきました。葦原錬成会にはインターハイ常連校が来ていることに驚きました。

初日は練習試合で、インターハイ常連校の新潟商業と練習試合をしました。少し押されましたが、チームとしていい試合が出来たと思います。

2日目は「葦原錬成高等学校剣道大会」。3校リーグの中で1位になった学校だけが決勝トーナメントに進出できる大会でした。英真学園の第1試合は、勝者数で惜しくも負けてしまいました。第2試合は、2対1という結果で敗退しました。だけど自分にもチームにも1本とること、チームを守ることなどまとまることができたと思います。もっと毎日走りこみをして身体を鍛え、もっと一生懸命稽古すれば負ける試合ではないと思ったのですごく悔しかったです。

これからも、チームのつながりを大切に、団体で近畿大会、インターハイ出場という目標を達成するために、日々努力していきたいと思います。

(2年生 佐野 雄哉)

私たち剣道部は夏休みの間に2泊3日で新潟遠征に行かせていただきました。1日目は錬成会2日目が大会でした。

1日目の錬成会では、私たち女子は新チームでの戦い方、仲間への繋ぎ方が不十分で、初々しい場面もありました。

そして2日目、大会が始まり、リーグを抜けて佐久長聖高校と試合をして敗退しました。

負けたけれどチーム内で信頼感を持つこと、そして横の繋がりを持つことなどの大切さを感じました。

遠征の大会は残念な結果に終わりました、今後に必要なものを得られたと思います。これから先いろんな壁に当たって断念してしまうときがあるかもしれません。でも一つ一つ課題を持ち上位進出を目指していきます。この遠征に行かせてくれた両親、いろんな場面で応援してくれた先生方、稽古を付けてくれた久米先生、丹羽先生に感謝の気持ちを込め、私たちはこれから団体戦で近畿大会出場を目標にしていきます。

8月20日～21日 広島遠征

8月20日21日と、広島県に遠征に行きました。僕は広島の遠征までは、負けてばかりでずっと調子が上がらないままでした。広島でもはじめてのほうは相手のペースで試合が進み勝てなかったのですが、先生方から色々アドバイスをいただき実践してみるとちょっとずつ勝てるようになりました。2日目も同じような調子で試合できるか不安だったのですが、良い調子で勝ち越すことができました。この広島遠征で気付いたことは、先生に言われた事を素直に聞き、最初は勝てなくても最後まであきらめず一試合一試合指導いただいたことを意識し稽古や試合をすれば変わっていくことが分かりました。

広島から帰ってきた後の試合でも言われた事を継続し勝つことができています。この遠征で自分は大きく変わることができ、本当によかったと思いました。これからもずっと継続していこうと思います。

(2年生 和崎 孔明)

今年初めて参加した広島遠征ではたくさんの練習試合をさせてもらうことができました。様々な県からたくさんの選手が来て、色々な人の「剣道」を見たり試合をして学ぶことができました。

試合では良い結果のときも悪い結果のときも、先生方が自分にプラスになるご指導を毎回して下さります。先生方のご指導を受けてから毎回それを心がけ試合に挑みます。私はこれまでで初めての遠征で、広島も初めて来てたくさん学ぶことができました。それは練習試合を何試合もすることで自分の弱いところを見つけ、そこを直すため、めげずに努力することです。これからはチームの役に立てる存在になれるように頑張っていきます。

(1年生 谷口 真琴)